

～第60号の主な内容～

- 〈1面〉2学科1課程が  
2018年度学生募集を継続中
- 〈2・3面〉社専ソフィア会
- 〈4面〉新任教員紹介、地域子育て  
支援事業の振り返り、教員リ  
レーコラム、他

# 社専だより

第60号 2018(平成30)年2月13日

編集・発行：上智社会福祉専門学校

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 TEL 03(3238)3021

ホームページアドレス <http://www.sophia-sw.jp/>



### 入試日程 (介護福祉士科、社会福祉士・児童指導員科)

区分	学科	試験日	時間	願書受付	合否通知
一般入試	介護福祉士科 社会福祉士・児童指導員科	2月24日	10:30～	1月24日～2月16日	2月26日
		3月6日	18:30～	2月19日～2月28日	3月7日

### 入試日程 (精神保健福祉士通信課程 (短期))

区分	課程	試験日	時間	願書受付	合否通知
一般入試	精神保健福祉士通信課程 (短期)	3月3日	① 10時～ ② 13時～	1月22日～2月20日	3月6日

一学科一課程が二〇一八年度学生募集を継続中

昨年八月の第五九号において、本校保育士科の学生募集の停止については、詳細をお

**介護福祉士科学生が初めて国家試験を受験**

介護福祉士科に関する今年度の大きな出来事の一つは、介護福祉士国家試験を受験したことです。二〇一七年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正により、従来のように介護福祉士養成校で所定の単位を取得して卒業すればそのまま国家資格が得られる仕組みはなくなり、その改正法の施行年度に卒業する介護福祉士科第三期生は、卒業年

度に入試日程の大半を終了し、本年に入試日程の大半を終了し、本紙が発行される時期には、二月入試と三月入試が実施されることになっていきます。精神保健福祉士通信課程(短期)は、二月入試及び一月入試がすでに終了し、これから残る三月入試が実施される所です。

卒業生のご関係の方々に、社会福祉分野での仕事を目標として勉強したい方、他の職業から福祉職へ転職するための準備を検討されている方等がいらっしゃるかもしれません、この入試日程をお知らせいただければ幸いです。

試験は今年の一月二十八日(日)に行われ、受験した学生は一八名、当日は気温が下がり、受験会場の教室の気温も大変低かったそうです。問題もかなり難しかったというリアクションが多いですが、良い結果が得られることを願います。合格発表は三月二十八日となっています。

一方、社会福祉士国家試験については、これまでも社会福祉士・児童指導員科学生は毎年受験しており、その合格率なども毎年報告しているところですが、昨年までは介護福祉士と同じ日程で試験が行われていたのですが、今年度は介護福祉士試験の一週間後である、二月四日(日)が試験日となりました。本紙が送付されているところには既に、受験を終えている頃だと思えますが、こちらもクラスでの勉強会や各種の模擬試験等を通じて、試験に対する準備を着実に進めてきました。合格発表

度に入試日程の大半を終了し、本年に入試日程の大半を終了し、本紙が発行される時期には、二月入試と三月入試が実施されることになっていきます。精神保健福祉士通信課程(短期)は、二月入試及び一月入試がすでに終了し、これから残る三月入試が実施される所です。

表は三月一日五日となっています。是非とも良い結果が望まれています。

度に入試日程の大半を終了し、本年に入試日程の大半を終了し、本紙が発行される時期には、二月入試と三月入試が実施されることになっていきます。精神保健福祉士通信課程(短期)は、二月入試及び一月入試がすでに終了し、これから残る三月入試が実施される所です。

試験は今年の一月二十八日(日)に行われ、受験した学生は一八名、当日は気温が下がり、受験会場の教室の気温も大変低かったそうです。問題もかなり難しかったというリアクションが多いですが、良い結果が得られることを願います。合格発表は三月二十八日となっています。

試験は今年の一月二十八日(日)に行われ、受験した学生は一八名、当日は気温が下がり、受験会場の教室の気温も大変低かったそうです。問題もかなり難しかったというリアクションが多いですが、良い結果が得られることを願います。合格発表は三月二十八日となっています。

度に入試日程の大半を終了し、本年に入試日程の大半を終了し、本紙が発行される時期には、二月入試と三月入試が実施されることになっていきます。精神保健福祉士通信課程(短期)は、二月入試及び一月入試がすでに終了し、これから残る三月入試が実施される所です。

試験は今年の一月二十八日(日)に行われ、受験した学生は一八名、当日は気温が下がり、受験会場の教室の気温も大変低かったそうです。問題もかなり難しかったというリアクションが多いですが、良い結果が得られることを願います。合格発表は三月二十八日となっています。

試験は今年の一月二十八日(日)に行われ、受験した学生は一八名、当日は気温が下がり、受験会場の教室の気温も大変低かったそうです。問題もかなり難しかったというリアクションが多いですが、良い結果が得られることを願います。合格発表は三月二十八日となっています。

二〇一八年度は八校のみ(上智社会福祉専門学校を含む)となりました。その理由は明らかではありませんが、職業訓練を受託する学校の選択は少なくなくなったと言えるでしょう。本校の受け入れ人数は二〇名で、総定員四〇名の半数となっています。現在、これらの希望者を対象とした学校見学会等を行っており、二月中旬の面接試験へと進む予定です。異なる職種や異業種で活躍されていた方々が、新たな学びによって介護福祉士となり、介護サービスの担い手となっていくための教育を、次年度も提供していきます。

**精神保健福祉士通信課程  
同窓会 wasophia 学習会  
のご案内**

日時：二〇一八年二月一七日(土) 一四時～一七時  
テーマ：貧困問題・ホームレス支援から見る被疑者・被告人段階の方などへの支援  
講師：NPO法人ほっとポット代表理事 宮澤進 先生  
場所：上智大学四谷キャンパス二号館四一五教室  
対象：本校精神保健福祉士通信課程卒業生、本校通信課程在学学生、本校学生で関心がある者  
問い合わせ：山本由紀(精神保健福祉士科)

公開シンポジウム「保育の展望」

渡邊眞理

二〇一七年度総会での講演会として、保育士養成課程の卒業生による「保育の展望」というテーマで公開シンポジウムを行いました。卒業生と現役の学生が保育の展望を共有する機会が求められているということとで企画しましたが、卒業生の誰にお願いをするのか、何人に登壇してもらうのか、持ち時間は何分ぐらいが適切なのかなど全てのこと

が手探りで準備でした。第一回目の公開シンポジウムは四人の卒業生にお願いし当日を迎えました。

第四十七期生小林千里さんは、フィンランドの保育園で体験したインクルーシブ保育について、多くの写真とともに話してくださいました。第三十六期生小林美晴さんは、

子ども教室マールを主宰しており、そこでの体験を通して考えた保育、子どもについて話してくださいました。第二十期生古畑裕美さんは、公立保育園の園長として考える保育者として、保育者は黒子であることを話してくださいました。

第十五期生上原知子さんは、施設実習から務めることになった、むらさき愛育園の話をしてくださいました。社専で学んだことの中に「どうしようもないこと」「どうしようもあること」(ガラルダ先生の話があり、まさしくその通りと私は納得しました。このフレーズを聞いたとたんに、ガラルダ先生の話す姿が鮮明に思い出されました。まとめとしてガラルダ先生は、三つの生き方から「生きる社専になる」ことについて話されました。

私は社専の良さ、今後に受け継ぐことの一つは、緩やかな人と人とのつながりだと思いま

した。それは暖かいものであり誇りでもあります。どこかで卒業生同士、卒業生と現役生はつながっています。また、ガラルダ先生が話されていた「生きる社専になる」このキーワードも、これから社専生が考え



ていくことの一つだと思えます。「生きる社専になる」そのためには自分が変化し続けていくこと、学び続けることが必要であり、向上していくことが求められます。そして自分の経験、知識を先輩や、目の前で関わっている人、子どもに還元することが求められます。

今回のシンポジウムはきっかけです。学ぶ場、意見を交換したり共有したりする場、卒業生と現役生の交流の場として今後も発展させ継続することが必要です。

人と人の緩やかなつながりがもたらす学び、交流、向上それらが保育の明るい未来へとつながっていくのではないのでしょうか。  
(第二十一期生、社専非常勤講師・社専ソフィア会委員)

**2017年度総会が開催されました**  
 日時：9月30日(土) 12時30分～14時30分  
 場所：上智大学12号館102室  
 議事：2016年度活動・会計決算報告、2017年度活動計画・予算案、役員人事  
 講演会：公開シンポジウム「保育の展望」(上記および次ページ参照)  
 ※前年度に引き続き、「上智レンコンミーティング2017」と同日・同会場で開催、シンポジウム終了後は合同懇親会も開催されました

上智社会福祉専門学校ソフィア会 2016年度会計決算報告 (単位：円)

	科目	金額	備考
収入	会費収入	838,000	
	DVD送料・手数料	200	
	雑収入	31	預金利子
	前年度繰越	501,478	
	合計	1,339,709	

2017年度予算書 (単位：円)

	科目	金額
収入	前年度繰越	292,901
	会費収入	1,000,000
	合計	1,292,901

	科目	金額	備考
支出	総会費	499,032	講師謝礼、「総会のお知らせ」印刷・郵送費
	クラス会等サポート事業	3,628	薬書、切手
	会議費	23,026	役員会交通費
	印刷費	153,252	社専だより第57・58号(一部負担)、インフォメーションパンフレット
	事務消耗品	7,038	PC用品、コピー用紙 他
	郵送通信費	262,252	電話回線使用料、インターネットプロバイダ契約料、社専だより等郵送費 他
	委託費	26,900	会員情報データ入力、担当者交通費
	寄付金	50,000	SOPHIA 未来募金
	慶弔費	21,680	ハイメ・カスタニエダ先生葬儀 供花
	支出合計	1,046,808	
次年度繰越	292,901		
合計	1,339,709		

	科目	金額
支出	総会費	500,000
	SOPHIA 未来募金	50,000
	クラス会等サポート事業	30,000
	印刷費	300,000
	委託費	30,000
	会議費	30,000
	郵送通信費	300,000
	事務消耗品	20,000
	予備費	30,000
	次年度繰越	2,901
合計	1,292,901	

### クルス会等サポート 事業 ご利用報告

第十七期生 同期会  
日程：二〇一七年十月十四日  
(土) 午後三時～  
場所：四ツ谷

ソフィア通りの桜の葉が少しづつ紅葉し始めた十月十四日(土)、上智社専十七期生が三十余年ぶりにキャンパスに集まりました。

幹事が全て社会福祉主事課程のメンバーだったのでもちよつと心配でしたが、保母課程の皆さんも多く参加してくださり、賑やかな会になりました。

お忙しい中、ハビエル・ガラダ先生、江藤久良良先生もご臨席くださり、両先生を囲んで昔話に花が咲きました。

個人的には、皆さんが持つてきてくれた卒業文集や当時の写真などがとても懐かしく、



今回出席しなかった仲間のことも思い出すことができました。

最後はみんなで「今日の日はさようなら」の大合唱！ぶっつけ本番のために、いつの間にか自然に二部合唱になりました(笑)。

出席者の皆さん、幹事の皆さん、お疲れさまでした。また、再会できる日を楽しみにしています。ありがとうございました。

幹事代表 谷千春

### 上智社会福祉専門学校 ソフィア会 二〇一六年度活動報告 (二〇一七年度総会承認)

#### 一 総会の開催

日時：二〇一六年十月一日

(土) 十三時～十五時三十分

場所：上智大学十二号館

五〇二室

決議事項：二〇一五年度活動・

会計決算報告、二〇一六年度

活動計画・予算案、役員人事

講演会

講師：Sr. 富田美智子さん(第

一期生、児童養護施設「八代

ナザレ園」園長)

テーマ：八代ナザレ園創立

百十六年の歴史と今日的な新

たな児童福祉の在り方

#### 二 上智大学 SOPHIA 未

来募金への協力

○本会からの募金額五万円。

使途指定「社専の研究紀要作

成」「社専の実習室・実習備

品の充実」

(紀要査読者謝礼および、保育

士科演習用品に充当された)

○募金趣意書・募金ニュース

等発送の支援(会員情報デー

タ提供、発送費用の一部負担

○総会参加者へ募金の呼びか

けを行い、一、一〇七円の

募金があった

#### 三 役員会の開催

(場所：いずれも上智社会福

#### 社専門学校会議室)

①日時：五月二十八日(土)

十八時三十分

出席者：六名

議題：二〇一六年度総会につ

いて、社専だよりについて、

卒業五十年記念祝状につい

て、役員人事について

②日時：九月三日(土) 十八

時四十五分

出席者：八名

議題：二〇一六年度総会につ

いて、社専だよりについて

③日時：十月一日(土) 十二

時

出席者：五名

議題：総会議案について、社

専だよりについて

④日時：二〇一七年一月二十一

日(土) 十八時三十分

出席者：五名

議題：二〇一六年度総会の反

省、二〇一七年度事業につい

て、役員人事について

#### 四 クラス会等サポート事業

ー利用状況ー

○第三十一期生介護福祉士科

クラス会(二〇一六年十一月)

#### 五 社専ソフィア会ホーム

ページの維持・管理

○社専ソフィア会のあゆみ、

社専ソフィア会総会等のペー

ジを更新(作業は社専事務セ

ンターに依頼)

#### 六 社専だより紙面作製と印

#### 副費負担

○第五十七、五十八号に総会

報告、クラス会等サポート事

業利用報告、社専アーカイブ

ス等を掲載した

○紙面の印刷費および発送費

用の一部を本会で負担した

#### 二〇一七年度活動計画

(同前)

#### 一 総会の開催

日時：九月三十日(土) 十二

時三十分～十四時三十分

場所：上智大学十二号館

講演会：公開シンポジウム「保

育の展望」

(座長)

ハビエル・ガラダ神父

(上智大学名誉教授・社専

第四代校長)

(シンポジスト)

上原知子さん

古畑裕美さん

小林美晴さん

小林千里さん

(司会)

渡邊眞理さん

#### 二 上智大学 SOPHIA 未

来募金への協力

○本会から金五万円を募金す

る(社専のために使用するよ

う指定する)

②前年度までと同様に、会員

への周知活動を行う

③総会参加者に向けて募金の

呼びかけを行う

#### 三 卒業後五十年の会員に贈

呈する祝状(カード)作成

(前年度から継続)

#### 四 クラス会等サポート事業

(二〇一六年度から継続)

#### 五 社専ソフィア会ホーム

ページの維持・管理

(二〇一六年度から継続)

#### 六 社専だより紙面作成の分

担、印刷・郵送の費用負担

#### 七 会員情報の維持・管理

#### ◎社専ソフィア会役員人事

(二〇一七年度総会承認)

―新役員―

副会長 木下裕支さん

(第十七期生)

委員 渡邊眞理さん

(第二十一期生)

#### SOPHIA 未来募金につい

てご報告 (事務局)

今年度事業計画二③の通

り、九月三十日の総会会場で

募金箱を設置しました。

当日の募金額は二、九四九

円でした。後日昨年度分と合

わせ、使途を「社専の教育研

究活動支援」に指定し募金し

ました。団体名は「社専ソフィ

ア会総会参加者有志」です。

募金にご協力いただいた総

会参加者の皆様、ありがとうございました。

### 教員リレーコラム⑦ 社会福祉士・児童指導員科の名称

社会福祉士・児童指導員科 寺田 誠

リレーコラム⑤(第五八号)で、堀米先生が取り上げたのは「社会福祉史とこれからの五〇年」でした。ここでは、社会福祉士・児童指導員科に焦点を当てて、堀米先生のコラムを少し引き継いでみようと思います。

上智社会福祉専門学校を「しゃせん」と愛称するように、やや長めの名称を掲げる社会福祉士・児童指導員科を「しゃじか(以下、「社児科」)」と、私たちは呼んでいます。そもそも社児科が設置・開設されたのは一九九七年。これを、社専が歩んできた五〇余年に位置づけてみれば、実は、社児科の歴史は浅いのです。しかし、この名称の由来をひも解いてみると、ここに込められた思いを垣間見ることができそうです。

そもそも社児科の前身は、今から三〇年以上も前、一九八二年に設置・開設した児童指導員科。当時、児童指導員と児童福祉司の養成は、国立で二校のみ、私学では唯一でした。その一〇年後の一九九二年、後の社児科につながる大きな改革を行っていきます。そして、この時のカリキュラム改編を基盤とし

て、社会福祉士の養成という新たな役割を得て誕生したのが社児科です。

問題は、この科の名称をどうしたらよいかということでした。児童指導員科に敬意を払って名称を残すべき、児童指導員の名称を外しても社会福祉士の養成コースであることを名称化するに足るのではないかと、意見は色々あったようです。結果、出自である児童指導員科の名前を残し、両者を繋ぎ合わせた社会福祉士・児童指導員科に決定しました。

どうしてこのようなことを書いたのか、不思議に思われるかもしれません。実は、このコラム欄を使って、次のメモをご紹介します。これは、新たに社児科を設置・開設するための資料の一片にありました。「単なる職能教育や受験教育に終わることなく、人間の尊厳にかかわる援助を可能とする福祉専門職の養成」、これが社児科のミッションであると。社専や社児科が置かれた状況は厳しくなりました。ミッションも見失いがちです。しかし、ここで強調しておきたいのは、科の名称や役割が変化しても、児童指導員科から連続するミッション、これを今日に引き継ぎたいという思いが、しゃじかに込められているということです。

児童指導員科と、しゃじかの卒業生一人ひとりに感謝を込めて、次のリレーコラムへ引継ぎたいと思います。

### 新任教員紹介

石川 織江

昨年九月より保育士科に着任いたしました石川織江と申します。専門は健康教育・身体表現です。保育者を目指す学生の方々にとって大切なことは、まずは自分自身が心も身体も健康であることだと考えております。特に実技の授業では、体育やダンスなど実際に身体を動かすことにより、子どもの気持ちになって全力で楽しむと同時に、自分の身体を感じを知ること、心を経験していただけるよう心がけております。何事にも前向きに取り組むことのできるたくましい保育者の育成を目指し、努めてまいります。よろしくお願いたします。

折口 量祐

九月より本校に着任致しました、折口量祐と申します。専門は教育哲学です。授業では特に保育の原理について専門的な内容を深めていきます。……とは言ったものの、私は知識ある者として、学生に何か高尚な学問を教えるやろう、などというつもりはありません。教壇に立つ度に、皆さんの鋭い質問や発想力に驚かされます。私の方が、皆さんから多くを学んでいます。「教育はお互いである。」かつての或る教育実践家の言葉です。知を愛するものとして、お互いに学びましょう。

### 地域子育て支援事業の振り返り

本校保育士科では、二〇一五年度より千代田区との連携事業として「地域子育て支援事業」に取り組んでまいりました。その成果をご紹介します。今回、その立ち上げから参加した学生からの感想を一部抜粋の形で許可を得て掲載させていただきます。

「私は子育て支援を通じて、二つのことを学びました。まず、保育士を目指す学生が学年を超えて集まりプロジェクトを成功させるには、メンバー間で綿密に話し合い役割分担することです。なぜなら、本校は夜学であるため、年齢、性別、価値観、職業も違う幅広い世代が集まっているからです。授業前後の少ない時間での準備には骨が折れましたが、一つの目標に向かってみんなで団結し協力した経験は、将来保育所などに勤務

業として「地域子育て支援事業」に取り組んでまいりました。その成果をご紹介します。今回、その立ち上げから参加した学生からの感想を一部抜粋の形で許可を得て掲載させていただきます。

「夜間の専門学校で子育て支援を行う事は、時間の確保という点において、正直なところ厳しかったと感じています。が、当日に参加された保護者や子ども達からの反応を直接受け取る経験は、それを上回るものでした。私たちの問いかけに、眼をキラキラさせて大きな声で答えてくれ

子ども達、ヘアサートの劇が始まった時には絵本を開いて見ていた子が、劇が進むに釘づけになっていました。舞台、折々に見せてくれた子どもたちの表情や反応は、私にとって大きな収穫であり喜びでした。

また、子どもたちとの自然な交流は出来ても、なかなか保護者とは関わりを持っていない反省があった中、子どもの描いた絵と一緒に保護者からいただいた手紙や、見学にいらした先生から感想を寄せていただいたことは、メンバーそれぞれのタレントが発揮された結果として、とても嬉しい出来事でした。きっとこの思いは私だけではないでしょう。加えて、活動二年目には、学内のウクレレサークルと世田谷のウクレレサークル「ウィルビー」の協力を得て、異世代間交流も実現する事が出来、地域活動のヒントも頂いたと思っております。」

保育士科三年 吉本 康子

### 卒業生の皆様へ | 第三回 卒業レポート 三科合同発表会のお知らせ |

平成三〇年一月一〇日

上智社会福祉専門学校を巣立ちそれぞれの方々が、社会に貢献されている事と存じます。皆さまが卒業されてからも多くの後輩が同じ学び舎で志を高く持ち日々勉学に励んでおります。

今回三回目の保育士科、介護福祉士科、社会福祉士・児童指導員科の三科で平成二九年度の卒業レポート発表会を行う予定です。卒業生と在校生、また科を超えて交流ができればと思いいこのような発表形態となつて三度目の春を迎えます。卒業生の皆さまが年に一回のホームカミングデーとなり、旧友や在校生との親睦を深めている場になれば良いと考えております。皆さまのご参加をお待ちしております。

詳細は以下の通りとなります。  
(予定)  
月日 平成三〇年二月二四日(土曜日)  
時間 一三時〜高山校長挨拶  
一三時一〇分〜卒業レポート発表  
大賞 各科発表 質疑応答含め各一五分  
一四時〜一四時一五分  
分科会開始  
二号館四〇一教室(全体会)  
二号館 四〇二教室  
四〇三教室 四〇四教室(社会福祉士・児童指導員科)  
二号館 四〇六教室  
四〇七教室(介護福祉士科)  
二号館 四〇八教室  
四〇九教室(保育士科)  
卒レポ担当  
寺田(社会福祉士・児童指導員科)  
加藤(介護福祉士科)  
樋口(保育士科)

会場が変更になった場合、当日正門に掲示致しますので、その案内に沿ってお越しください。